

「奈良応援せんと実行委員会」が 義援金を贈呈

昨年の3月11日に発生した東日本大震災で被災した文化財を救出するため、官民あげての文化財レスキュー事業（被災文化財の保全、救出、応急措置等をおこなうもの）がおこなわれています。

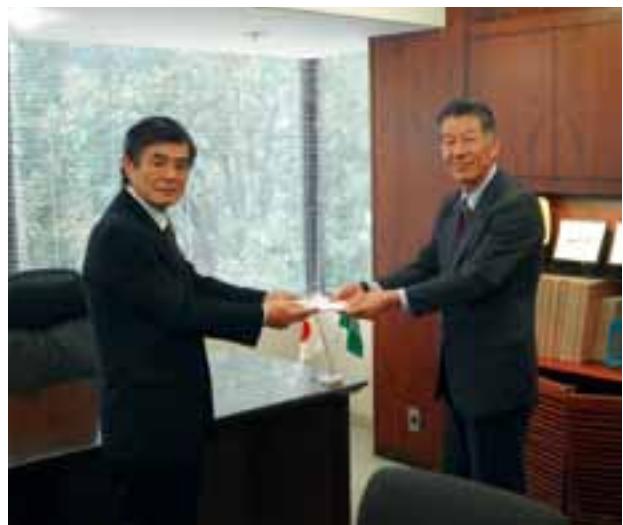
このような状況の中、文化財の宝庫であり、文化財の保護に理解と関心の深い「奈良」だからこそできることはないかと考え、奈良県内の文化財、教育等の関係機関・団体、企業等が連携し「文化財レスキュー応援せんと！」実行委員会を昨年の6月に設立しました。

実行委員会では、文化財レスキュー事業等への支援をおこなうために、それぞれが有する力を「奈良の力」として結集し、県内各所での募金活動をはじめ、公開講演会等での売上代の寄附、チャリティー事業の開催等をおこないました。その結果、3月までに、9,253,246円の義援金を集め、公益財團法人文化財保護・芸術研究助成財団（平山財団）をはじめ、文化財保護の活動をおこなっている団体へ寄附しました。

寄附した義援金は、専門家の現地への派遣、支援物資の購入、冷蔵倉庫等の一時保管場所の確保、真空凍結乾燥等の応急処置等に充てられており、また、今後おこなわれる本格的な修理にも充てられる予定です。

実行委員会としての活動は3月で終了しましたが、被災文化財の救援、修復は、まだまだ息の長い活動になりますので、引き続きご支援いただきますようお願いします。

（研究支援推進部 田中 康成）



松村所長から平山財団への義援金の贈呈

東院庭園 よみがえる古代の宴

2012年5月3日から6日の連休4日間に『東院庭園 よみがえる古代の宴』をおこないました。具体的には、奈良文化財研究所平城宮跡資料館の改裝にあたって新たに製作した調度品等の一部を東院庭園に持ち込み中央建物の東側に当時の宴の場を復元し、そこに高位の貴族と女官を配して宴の様子を再現しました。また、庭園内では衣装を着た女官たちがそぞろ歩き、お客様の記念撮影のモデルとなる等、天平時代かくばかり、と思わせるようなひとときが現出されました。

さらに飛鳥地区で活躍する劇団「時空」による大伴家持を主人公にした演劇や「ミューズクラスター カンパニー」による万葉集を題材にした朗詠や踊りが披露されました。

ご来園のお客様にはおおむね好評を持って迎えられたと自負していますが、衣装を着て座っている、歩いているというだけでは、お客様への訴求効果がやや足りなかった面は認めなければいけないと思います。今年の秋以降、さらに継続していくには、衣装を着ているというだけではない、何らかのイベント性も盛り込んでいく必要があるように感じました。

本イベントの開催にあたりましては、上記劇団「時空」の皆さん・「ミューズクラスター カンパニー」の皆さんに多大なご協力をいただきとともに、衣装を着用していただいた所員を含むボランティアの方々に篤くお礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

（都城発掘調査部 杉山 洋）



再現された古代の宴の様子